

欧州連合(EU)からの離脱問題で、これまで明確な交渉方針を示してこなかった英国のメイ首相が態度を明らかにした。
選択したのは、EUからの完全

昨年6月の国民投票では、離脱を支持した多くが、EUの「移動の自由」により流入する移民急増が雇用や福祉を圧迫しているとの不満を抱えていたとされる。

5億人の人口を抱える単一市場であるEUは、域内総生産(GDP)で米国と肩を並べる。
英国はその中で、GDP、人口ともドイツに次ぐ規模だ。欧州はもとより、世界経済に与える影響は少なくない。

これまでの戦略を見直し、影響をできるだけ抑える手だてを講じることが迫られよう。
懸念されるのは、排外主義や保護主義的な思想が広がり、各国でEU離脱を主張する政党の影響力が増しつつあることだ。

英EU完全離脱

離脱である。

メイ氏はEU各国大使を前にした演説で、EU域内からの移民流入の制限や労働者の保護などのほか、世界の国々と貿易や取引を行う「貿易立国」実現への強い意欲を表明した。

EUとは「前向きで新しい関係構築」を目指すとしている。

影響を最小限に抑えたい

メイ氏の判断は、経済への打撃より、国民投票で示された移民の流入抑制策を求める民意を尊重した結果と言えよう。

EU離脱を支持し、英国との貿易協定締結に前向きなトランプ氏が20日に米大統領に就任すること

も後押しとなったに違いない。

る恐れがある。
帝国テータバンクによると、全
国から英国に進出している日本企業は、本県を含めて1300社以上

控える。結果によっては、英国に追随しようとする動きが強まることも予想される。
そうなれば、国際秩序は大きく変容する可能性がある。

英国が欧州単一市場から完全離脱すれば、関税や規制への対応は避けられない。

メイ氏は3月末までに正式にEUへ離脱の意思を通知し、原則2年間の離脱交渉に入る。

社説

加盟国間の関税を撤廃する一方で域外との貿易に共通関税を設けるEUの関税同盟から外れ、新たにEUと貿易協定を結びたい意向だという。

ただ、メイ氏の思惑通りに進むかどうかは疑問だ。交渉の行方は不透明と言わざるを得ない。

交渉の内容次第では、離脱国が相次ぎ、EUの足元を揺るがす事態に陥りかねないからだ。

ただ、EUはアイルランドやオランダなど英国経済との結び付きが強い国があり、必ずしも一枚岩とは言えない。

「欧州リスク」がさらに拡大するのかが、それとも影響を最小限にとどめるのか。

これから始まる交渉の行方と、経済運営を巡る英国のかじ取りを注視したい。

2017.1.19

座標軸

拉致から40年

先月、群馬県庁(前橋市)で開かれた拉致問題のパネル展で、達筆の短歌に目を引かれた。

はろばろと睦み移りし雪の街に娘を失いて海鳴り哀し

色紙の最後に「早紀江」のサインが読み取れた。北朝鮮に拉致された横田めぐみさん(13)の母早紀江さんが、娘への思いを込めて詠んだ歌だった。

「めぐみさんが通った」寄居中学までの通学路を歩くとき、下手な短歌がポロポロと口からこぼれて残りました(横田早紀江さん著「めぐみ、お母さんがきつと助けてあげる」)。展示された6首には、早紀江さんの切ない心情がにじみ、立ち止まって見入る人も多かった。パネル展の中心的役割を果たしたのは「救う会・群馬」の大野敏雄さんと妻トシ江さんだ。早紀江さんの

「救出の旗は下ろさない」

夫滋さんが群馬で勤務していた時に、両夫妻は知り合った。

大野夫妻は娘さんを早くに亡くした。突然な娘がいなくなった横田夫妻の気持ちは痛いほど分かり、交流が深まった。救う会群馬は「横田ご夫妻ら拉致被害者を支援するボランティアの会」の名称も掲げる。

敏雄さんは長年、めぐみさん救出を訴え続けてきたが「自分も80歳の高齢になり、もう会をやめようと思った」という。しかし、早紀江さんからの連絡を受け、思いとどまった。直筆の短歌を寄せてもらい、パネル展の目玉にした。

今年めぐみさんが拉致されてから40年。「救出の旗は絶対下ろさない」と敏雄さん。「でも、長すぎる。もう時間がない」。怒りと焦りは、日本中の思いを代弁している。

(論説編集委員・風間栄治)